山　形　大　学　紀　要（教育科学）第14巻　第３号　平成20年２月
Bull. of Yamagata Univ., Educ. Sci., Vol. 14 No. 3, February 2008

新聞記事における日本語の中級・上級文型の使用頻度に関する調査研究

陳　　姵　璇
大学院教育学研究科特別聴講学生
銘傳大學應用日語研究所
山　本　広　志
地域教育文化学部生活総合学科
（平成19年8月29日受理）

要　　旨

日本語教育における効果的な文型学習順序の構築に役立てるため、社説を調査した前報に引き続き新聞記事で使われる中級・上級文型の使用頻度調査を行った。その結果、一面トップ記事においても使用される文型は上級よりも中級が圧倒的に多く、特定の中級文型が各新聞に共通して高い頻度で使用されるということが分かった。このことは、使用頻度の高い文型から順に学習することによって単語さえ分かれば中級の早い段階で新聞記事をかなり読みこなせるのではないかということを示唆している。

§１　序

日本語の生の文章の文型使用頻度に関する研究は意外に少ない。その中で新聞の文型使用頻度については幾つかの報告があるものの、社説以外の一般記事に関しては充分とは言えない。

荘らは読売新聞、朝日新聞と雑誌を調査対象として、一面トップ記事、社説、家庭欄トップ記事および雑誌における文型使用頻度を調査した。[2] そして、時や原因結果を表す文型、情報伝達に必要な文型など、報道関係の文章の特徴と見られるものが多いことや、それぞれの記事の種別に特有な文型があることを述べている。しかし荘らは使用頻度上位100の文型を調査したとしながらも、個々の文型の使用頻度の数値を示していない。また、新聞と雑誌の文型出現回数が合算されており、新聞のみの使用頻度順位も示されていない。

鈴木は北日本新聞等8種類のデータベースから中級文型の使用頻度を調査した結果、使用頻度から重要度の高い文型を順番に選択していくことが可能であることを示唆した。[3] しかし鈴木もまた個々の文型の使用頻度の数値をほとんど示していない上に、8種類のデータベースを総合した結果しか示しておらず新聞のみの結果が明らかではない。

一方、社説に関しては筆者らの報告[1]がある。筆者らは読売新聞、朝日新聞、毎日新聞の社説で用いられた中級・上級文型の使用頻度の数値を示し、特定の中級文型が3紙共通に高い頻度で繰り返し使われていることを明らかにした。

社説については村田の報告[4]もあるが、村田もまた使用頻度の数値を一部しか示していない。

§２　調査方法

効果的な文型学習順序の構築に役立てるため一般の新聞記事を対象として、社説の調査[1]と同様の方法で調査を行った。文型の定義には『日本語能力試験出題基準』[5]の機能語を採用し、1級を上級、2級を中級とした。『日本語能力試験出題基準』は日本語教科書の文型調査[6]に文学作品や新聞雑誌等の用例調査を加味して定められたもので、実状をかなり反映していると考えられる。

本研究の調査対象は発行部数上位から順に読売新聞（朝刊1,003万部）、朝日新聞（朝刊812万部）、毎日新聞（朝刊400万部）[7] 3紙の山形市における朝刊一面トップ記事とし、調査期間は2007年1月1日から1月31日までとした。休刊日があるため記事総篇数は延べ日数より若干少ない90篇だった。調査は単に文型の出現回数を数えるだけでなく、意味別の出現回数も集計した。1つの文型がしばしば複数の意味を持つためである。調査は中級および上級文型のみを対象とした。初級文型は基礎であり、学習者が早い段階で全て修得すべき性格のものと考えられる。学習者が日本語の生の文章に取り組める段階に進んでからの効果的な文型学習順序構築に役立てるという本研究の目的から、初級文型は調査の対象としなかった。

§３　結果および検討

（１）　使用文型数

記事中の文型数の調査結果を表1に示す。調査対象全体で1回以上使用された文型の数は70で、このうち上級文型が7%、中級文型が93% だった。これを社説の調査[1]と比較すると、社説では上級文型が16%、中級文型が84% だった。どちらも中級文型の比率が高いという点では同じだが、社説よりも一面トップ記事の方がさらに中級文型の比率が高い。社説と異なり一面トップ記事では各紙の上級文型が1つも重複していない。各新聞別に見ると、朝日、読売、毎日の順に使用文型数が多いが、大差はない。次に、文型数（意味別）の調査結果を表2に示す。調査対象全体で1回以上使用された文型（意味別）は77あり、このうち上級

表１　一面トップ記事と社説[1]の使用文型数

	一面トップ記事		社説[1]	
	上級	中級	上級	中級
読売新聞	2（4%）	50（96%）	10（11%）	85（89%）
朝日新聞	2（4%）	54（96%）	11（9%）	109（91%）
毎日新聞	1（2%）	45（98%）	13（12%）	98（88%）
3紙全体	5（7%）	65（93%）	25（16%）	128（84%）

表２　一面トップ記事と社説[1]の使用文型（意味別）数

	一面トップ記事		社説[1]	
	上級	中級	上級	中級
読売新聞	2（4%）	54（96%）	10（9%）	96（91%）
朝日新聞	2（3%）	59（97%）	17（12%）	123（88%）
毎日新聞	1（2%）	50（98%）	13（10%）	111（90%）
3紙全体	5（6%）	72（94%）	25（14%）	150（86%）

文型（意味別）が6%、中級文型（意味別）が94% だった。社説の調査[1] では上級文型（意味別）が14%、中級文型（意味別）が86% だった。

文型の延べ使用回数は図1にまとめた。どの新聞でも上級文型よりも中級文型が圧倒的に多く使用されている。ただ、『日本語能力試験出題基準』[5] は1級と2級の機能語が例示に過ぎないとしているため、中級・上級相当の文型が本研究の定義から外れて集計されていない可能性がある。この点については後述する。

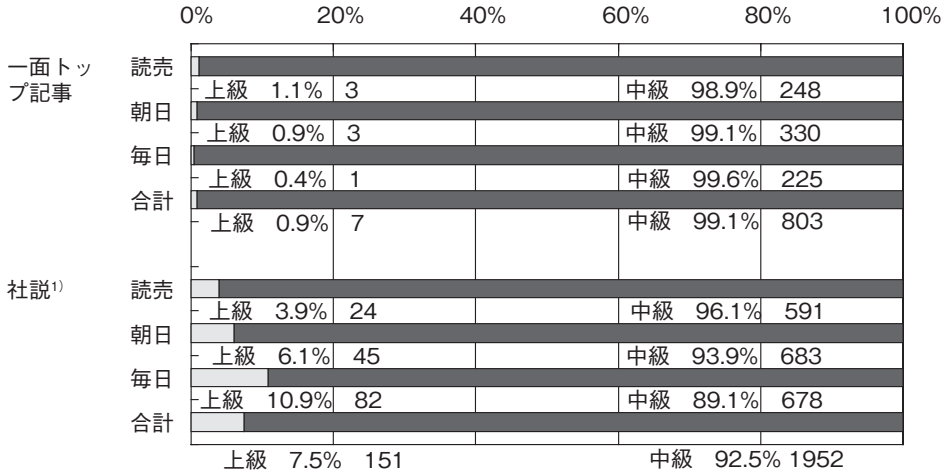

図１ 文型の延べ使用回数の割合

（２） 使用頻度順位

使用頻度は、ある文型が記事1篇あたり平均何回使われるかで算出した。使用頻度が1を超えると、この文型は毎篇平均1回以上使われるということを意味している。表3に文型（意味別）使用頻度が0.05以上のものを頻度が高い順にまとめた。表中で丸数字①～⑤は使用頻度順位の上位1位～ 5位を示す。

3紙平均を見ると、使用頻度順位が最も高いのは「～について／～につき／～については／～についても／～についての」で、2位は「～として／～としては／～としても」だった。両文型は使用頻度が1を超え、平均で記事1篇に1回以上使われている。

3紙を個別に見ると、使用頻度順位にはやや違いがある。朝日新聞の1位と2位は3紙平均と同じ文型だが、読売新聞では1位と2位が逆転し、毎日新聞では3紙平均の1位と2位が同率で1位になった。

3紙それぞれの上位5文型を比較すると、順位は一部異なるものの「～について／～につき／～については／～についても／～についての」、「～として／～としては／～としても」、「～に対して／～に対し／～に対しては／～に対しても／～に対する」、「～によって／～により／～によっては／～による／～によると／～によれば（根拠）」の4つが共通していた。3紙に多く使われる文型（意味別）は概ね共通していると言える。

本研究の結果を社説の調査結果[1] と比較すると、3紙平均の使用頻度上位5文型のうち本研究と社説で3つが共通していた。共通していたのは「～について／～につき／～については／～についても／～についての」、「～として／～としては／～としても」、「～に対

して／～に対し／～に対しては／～に対しても／～に対する」である。一方社説で1位だった「～べき／～べきだ／～べきでない」は本研究では8位、社説で5位だった「～ように（例）」は本研究では32位にとどまっている。社説固有の特性によるこうした違いはあるものの、全体としては似通った中級文型が一面トップ記事と社説で共通に使用されているということが分かった。

次に中級文型と上級文型の比率に注目してみると、表3にある使用頻度0.05以上の38文型（意味別）は全て中級文型で、上級文型は1つもなかった。前述したように『日本語能力試験出題基準』[5] は1級と2級の機能語が例示に過ぎないとしているため、中級相当あるいは上級相当の文型が定義から外れて集計から漏れている可能性がある。このことから上級文型よりも中級文型の使用比率が圧倒的に高いことを示す図1の結果に疑問を持つ向きもあろう。しかし表3で個々の文型に注目してみると、特定の中級文型が高い比率で繰り返し使用されているという事実は揺るぎないことが分かる。

以上のことから前報[1] で述べた、使用頻度の高い中級文型から順に学習することによって単語さえ分かれば中級の早い段階で新聞をかなり読みこなせるのではないかという可能性が裏付けられた。

表3　文型（意味別）の使用頻度

文型（意味別）	中級 / 上級	使用頻度			
		読売	朝日	毎日	平均
～について / ～につき / ～については / ～についても / ～についての	中級	② 1.200	① 2.067	① 0.733	① 1.333
～として / ～としては / ～としても	中級	① 1.233	② 1.233	① 0.733	② 1.076
～に対して / ～に対し / ～に対しては / ～に対しても / ～に対する	中級	③ 0.773	③ 0.933	③ 0.633	③ 0.767
～によって / ～により / によっては / ～による / ～によると / ～によれば（根拠）	中級	④ 0.600	④ 0.867	④ 0.500	④ 0.656
～を～として / ～を～とする / ～を～とした	中級	0.233	⑤ 0.467	0.367	⑤ 0.356
～をめぐって / ～をめぐる	中級	0.133	0.433	④ 0.500	⑤ 0.356
～によって / ～により / によっては / ～による / ～によると / ～によれば（行為者）	中級	0.200	0.233	0.300	0.244
～べき / ～べきだ / ～べきではない	中級	0.133	0.267	0.300	0.233
～一方／～一方で / ～一方では	中級	0.167	0.233	0.200	0.200
～上で / ～上の / ～上では / ～上でも / ～上での（時間的前後関係）	中級	0.200	0.167	0.200	0.189
～ことから	中級	⑤ 0.267	0.167	0.133	0.189
～に基づいて / ～に基づき / ～に基づく / ～に基づいた	中級	⑤ 0.267	0.200	0.100	0.189
～によって / ～により / によっては / ～による / ～によると / ～によれば（原因、理由）	中級	⑤ 0.267	0.233	0.033	0.178
～に関して / ～に関しては / ～に関しても / ～に関する	中級	0.133	0.133	0.233	0.167
～かねない	中級	0.133	0.167	0.100	0.133
～たところ	中級	0.133	0.100	0.133	0.122
～を中心に / ～を中心として / ～を中心にして	中級	0.133	0.133	0.067	0.111

～ように（目的）	中級	0.067	0.000	0.267	0.111
～に加えて / ～に加え	中級	0.067	0.167	0.100	0.111
～とともに	中級	0.100	0.100	0.100	0.100
～にとって / ～にとっては / ～にとっても / ～にとっての	中級	0.067	0.133	0.067	0.089
～だけに（強調）	中級	0.100	0.067	0.100	0.089
～によって / ～により / によっては / ～による / ～によると / ～によれば（手段、方法）	中級	0.100	0.100	0.067	0.089
～に伴って / ～に伴い / ～に伴う	中級	0.100	0.133	0.033	0.089
～ものの	中級	0.033	0.167	0.033	0.078
～ながら	中級	0.000	0.100	0.100	0.067
～おそれがある	中級	0.100	0.000	0.100	0.067
～に限って / ～に限り / ～に限らず（限定）	中級	0.033	0.067	0.100	0.067
～を通じて / ～を通して	中級	0.000	0.133	0.067	0.067
～に応じて / ～に応じ / ～に応じては / ～に応じても / ～に応じた	中級	0.167	0.000	0.033	0.067
～上で／～上の / ～上では / ～上でも / ～上での（場面、条件）	中級	0.100	0.100	0.000	0.067
～ように（例）	中級	0.000	0.000	0.167	0.056
～をもとに / ～をもとにして	中級	0.067	0.100	0.000	0.056
～にかかわらず / ～にもかかわらず / ～にかかわりなく / ～にはかかわりなく	中級	0.033	0.067	0.067	0.056
～つつある	中級	0.000	0.133	0.033	0.056
～にわたって / ～にわたり / ～にわたる / ～にわたった	中級	0.067	0.067	0.033	0.056
～によって / ～により / ～によっては / ～による / ～によると / ～によれば（相違）	中級	0.067	0.033	0.067	0.056
～うえ / ～うえに	中級	0.033	0.133	0.000	0.056

（３）機能による文型の分類

3紙の調査対象記事に共通していた文型は33あった。これらの文型にどのような特徴があるかを調べるため文型の機能[8, 9]による分類を行い、頻度順に図示した。（図2）機能別の使用頻度1位から5位までは、「主題、動作の対象」、「視点、立場」、「基準」、「根拠、依拠」、「原因、理由」の順だった。1位「主題、動作の対象」は、事件や事故を正確に報道するのに欠かせない。また、一方の当事者の主張を掲載したり一部の個人や団体の意見を掲載するには、2～4位の「視点、立場」、「基準」、「根拠、依拠」といった機能の文型が必要となる。5位「原因、理由」もまた事件事故報道の記事で重要な要素となる。

最後に、本研究の結果と社説における調査結果[1]の機能別使用頻度上位5位までを比較すると、「主題、動作の対象」、「視点、立場」、「基準」の3つの機能が双方で共通している。このうち「主題、動作の対象」は記事と社説双方で使用頻度1位だった。一方、社説で2位だった「勧告、注意、禁止」は一面トップ記事では8位、社説で4位だった「推量」は一面トップ記事では11位にとどまっている。

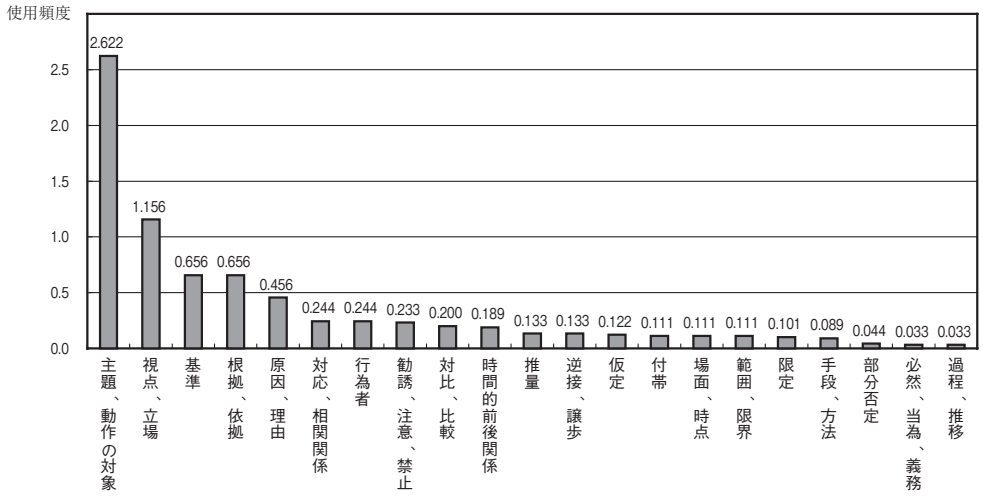

図2　文型の機能別使用頻度

（4）他の研究との比較

荘[2]および鈴木[3]の報告と、本研究および前報[1]の比較を表4にまとめた。調査対象がそれぞれ異なるものの、使用頻度の高い文型として、「～として／～としては／～としても」、「～について／～につき／～については／～についても／～についての」、「～に対して／～に対し／～に対しては／～に対しても／～に対する」に相当する文型が共通して現れている。ただ、序で述べたように荘も鈴木も個々の使用頻度の数値をほとんど示していない上に新聞以外と総合した結果しか示していないため、これ以上の比較検討は難しい。

表4　他の研究との比較

	荘[2]	鈴木[3]	本研究および前報[1]
調査対象	朝日新聞、読売新聞 （社説、一面トップ記事、家庭欄トップ記事） AERA、FOUCS（雑誌）	『日本の企業発展史』、 『北日本新聞』、 『新しい社会　公民』、 『平成4年版国民生活白書』、 『二十世紀の世界』、 『人体の不思議』、 『新しい社会　地理』、 『わが国の文教施策』8種類のデータベース（CASTEL/J）	読売新聞 朝日新聞 毎日新聞 一面トップ記事90篇 社説176篇
調査文型	初級・中級の文型	中級の文型	中級・上級の文型
文型の定義	独自	『日本語能力試験出題基準』2級の機能語	『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』1級、2級の機能語
使用頻度の高い文型	*「～という」 *「～ため」 *「～として」 *「～ば」 *「～と」（仮定、条件）	*「～とともに」 *「～によって」（原因、手段、場合） *「～うえ」 *「～によると」	一面トップ記事 *「～について / ～につき / ～については / ～についても / ～についての」（中級、使用頻度1.315）

	*「～まで」 *「～について（の / は）/ つき」 *「～によって / よる / より」 *「～ても / でも」 *「～ように」 *「～とき」 など （頻度順、頻度数値不明、新聞と雑誌の合算）	*「～を～とする」 *「～として」 *「～について」 *「～における」 *「～において」 *「～に対する」 など （順不同、頻度数値不明、新聞以外も合算）	*「～として / ～としては / ～としても」（中級、使用頻度 1.079） *「～に対して / ～に対し / ～に対しては / ～に対しも / ～に対する」（中級、使用頻度 0.775）
			社説[1]
			*「～べき / ～べきだ / ～べきではない」（中級、使用頻度 1.153） *「～として / ～としては / ～としても」（中級、使用頻度 0.710） *「～について / ～につき / ～については / ～についても / ～についての」（中級、使用頻度 0.693）

§４　まとめ

発行部数上位3新聞（読売新聞、朝日新聞、毎日新聞）の一面トップ記事における中級・上級文型の使用頻度調査を行い、次のことを明らかにした。

(1)　3紙平均で使用頻度第1位の文型（意味別）は、「～について／～につき／～については／～についても／～についての」で、第2位は「～として／～としては／～としても」だった。この2つの文型が使用頻度1を超え、調査対象記事1篇につき平均1回以上使われていた。

(2)　3紙ぞれぞれの使用頻度上位5文型（意味別）のうち、4つまでは全紙で共通していた。

(3)　3紙平均で使用頻度が0.05以上の文型（意味別）は全て中級文型であり、上級文型は1つもなかった。

(4)　文型の延べ使用回数は、中級文型が99.1%、上級文型が0.9% と圧倒的に中級文型が多く使われていた。

(5)　社説の調査結果[1] と共通して使用頻度の高い中級文型が多かった。

以上の結果から、特定の中級文型が各新聞に共通して高い頻度で繰り返し使われているということが分かった。中級の文型学習順序構築に有益な示唆が得られた。

謝辞

山形大学地域教育文化学部園田博文准教授、山形大学国際センター黒沢晶子教授および同センター内海由美子准教授の有益な助言に感謝する。また、英文題名および英文概要に関して山形大学地域教育文化学部ジェラルド・ジョセフ・ミラー専任講師の有益な助言に感謝する。

本研究は山形大学教育研究基盤校費によって行われた。本研究は山形大学地域教育文化学部と銘傳大學應用語文學院による学術教育交流協定の成果である。

文献

1)　陳姵璇、羅于珊、李芳瑜、楊曉旻、楊慧菁、顏瑞珍、山本広志（2007）「新聞の社説における日本語の中級・上級文型の使用頻度に関する調査研究」山形大学教職・教育実践研究　2号　83-90.

2)　荘由木子、綛田はるみ、簗島史恵　（1996）「中級文型格付けの試み（2）— 新聞・雑誌の文中表現の頻度調査 —」日本語国際センター紀要　6号　71-81.

3)　鈴木庸子　（2001）「CASTEL/J を利用した機能語の出現頻度調査」ICU 日本語教育研究センター紀要　**10**　13-27.

4)　村田年　（2001）「文章と文型3 — 社説における文型の使用頻度調査 —」日本語と日本語教育　29号　43-60.

5)　国際交流基金、日本国際教育協会　（2002）『日本語能力試験出題基準［改訂版］』凡人社

6)　日本語教育学会　（1991）『日本語教育機関におけるコース・デザイン』凡人社

7)　日本新聞協会　（2006）『日本新聞年鑑（'06/'07年版）』電通

8)　川口義一　（1994）「中級文型集による文型学習 — 作文による指導 —」講座日本語教育　29分冊　1-16.

9)　友松悦子、和栗雅子、宮本淳　（1996）『どんな時どう使う 日本語表現文型500 — 日本語能力試験1・2級対応』アルク

Summary

CHEN Pei-Hsuan,YAMAMOTO Hiroshi:
A Study on the Frequency of Intermediate and Advanced Sentence Patterns in Japanese Newspaper Articles

In order to make an efficient sentence pattern learning order, the author continued a study on the frequency of intermediate and advanced sentence patterns in Japanese newspaper editorials and front-page news. The results were as follows: front-page news used intermediate level sentences more often than advanced sentences; and some specific intermediate sentences were used frequently in every newspaper. Taking into account these sentence pattern rankings, we find that if students can understand vocabulary, they can begin to read newspapers from the early intermediate level.